

# わたしの聖戦

女性が働くこと  
ジハード

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

連載  
226

## 就活と替え玉

就活、つまり就職活動において替え玉受験をするケースが問題視されている。

就職を希望する際、多くはまずエントリーをし、次に適性検査を受ける必要があり、合格すれば面接へ進むという流れになっている。学生の中には、適性検査でつまずき先に進むことがなかなかできず、苦肉の策として替え玉を使う場合があるという。しかも替え玉を紹介するサイトや企業が存在するというから、実態はすごいことになっているのだろう。一方で、替え玉を見破るためのノウハウを駆使し、オンラインで本人確認を担う企業もある。学生の就活の世界で、替え玉が闊歩するいたちごっこが蔓が

延しつつあるらしい。実際に、替え玉を使って希望する会社に就職した女学生の声を聞くと、何度もトライしてもパスしなかつた適正試験に替え玉が合格、その後自身が面接までこぎつき、無事に就職できたと喜んでいた。

改めて、この適性検査とは何かを調べてみると「新卒採用にあたり、企業が求める職務要件を満たしている、もしくはその可能性がある、将来的に期待できる人材である」という判断をするための基準を測定するもの」と定義されていて、大企業の多くがこの検査を採用している。さらに適性検査は、能力検査と性格検査に分か



と非言語分野がある。言語分野は語彙と読解、非言語分野は計算と推論だという。つまり、国語系と数学系ということになる。それぞれの例文（過去問）はネットで見ることができるので、早速トライしてみた。さて難しいとは思えないが、

場合が多くかった。ずいぶん前になるが、父親が娘の代わりに受験してバレたというニュースを見て、これは必死だつたのだろうが、その必死さゆえに結果が衰すぎた。くだんの親娘はその後どんな人生を歩んだのだろうか。

日本にはその昔影武者

が存在した。最も有名なのは武田信玄である。時は戦国、戦の途上で死の床についた信玄は子の勝頼に「3年間、喪を秘せ」と言い残したと伝えられる。この逸話を題材にしたのが黒沢明監督の「影武者」である。

似た話はハリウッド映画にもある。アメリカ大統領がベッドインの最中、発作を起こし意識不明となる。そこで、替え玉登場となるわけだ。

替え玉受験といえば、かつては大学受験の際に別人が受験したことが発覚する

場合が多かった。ずいぶん前になるが、父親が娘の代わりに受験してバレたといふのが、偽の大統領は気さくで情の深い人物という設定で、笑いあり涙ありの映画だった。タイトルは「デーブ」。偽大統領の名前である。

影武者というとかっこいいが、替え玉となるとたんにうさん臭くなる。「影武者」も「デーブ」も、偽物の方が人情味にあふれ、共感を呼ぶようになっていく。それは自分のためといふより、難局を乗り越えたいと必死になつてている周囲の人々に期待され、それに精一杯応えようとする姿が描かれているためだろう。しかしそれでも、大勢の人をだましていたが故のやるせなさとそれなりの傷を負うことは避けられなかつた。

就活の替え玉は、一時的なエゴによるものである。たとえ適正試験のあり方に問題があろうとも、だ。卑怯なを行いをした過去は、決して忘れられないものである。

イラスト・伊藤香澄